

新潟県 公民館月報

KOMINKAN GEPPPO

1

January 2020
No.803



「親子で協力！ロボットプログラミング体験会」(見附市)

思いどおりにロボットを動かせるよう、親子で相談しながらチャレンジしました。

4~5

特集

「新潟県立生涯学習推進センターの研修」

ピラミッドはつくるな、鉛筆のような尖塔を建てよ

新潟県立生涯学習推進センター 副参事 五十嵐 和彦

CONTENTS

- 2 トピックス 「新潟市公民館全職員研修会」開催される
- 3 視 点 「現代的・社会的課題に目を向ける」 長岡市立北中学校 校長 武樋 正之
ひ ろ ば 「我が集落せいば、なる!」 長岡市寺泊公民館野積分館 分館長 高津 勝
掲 示 板 「第2回新潟県公民館月報編集委員会の開催・第31回全国セミナー参加者」
- 6 実践記録シリーズ きのと交流館マナビップ講座 胎内市中央公民館
- 7 サークル交流 「歌の大好きな仲間達」(湯沢町) / 「大切なことそれは感動する心」(魚沼市)
素 顔 拝 見 小池 和代さん(五泉市) / 長谷川しのぶさん(小千谷市)
- 8 お元気ですか 「仲間とともに」 佐渡市・加藤 一善さん
恵贈資料紹介

▼ TOPICS

「新潟市公民館全職員研修会」開催される

新潟市公民館全職員研修会が11月20日(水)と29日(金)の2日、横越地区公民館で開催されました。昨年まで新潟市公民館改革職員研修会として公民館職員の研修会を実施してきましたが、今年度から名称を変え、平日に2日に分けての研修会となりました。開会のあいさつでは「名称は変わりますが、研修の目的に変わりはありません。平成22年度に行った新潟市公民館改革宣言の精神を着実に推進することを目的に、今回の研修では「会議で役立つファシリテーションの技術」1人1人の力を活かすために」をテーマに地域の方と一緒に課題解決に取り組むにあたり、参加者の意見を引き出すためのスキル、具体的にはホワイトボード・ミーティング®のやり方を学んでいただきます。」というお話で研修が始まりました。

研修は、講師の先生から「今日のゴール」、「基本的な考え方」、「ホワイトボード・ミーティング®の進め方」について注意事項を含めて説明を受けて演習をするという形でしたのでスムーズに演習が進みました。



開会式の様子

○研修テーマ

「会議で役立つファシリテーションの技術」1人1人の力を活かすために」

講師 吉崎 利生氏
(ホワイトボード・ミーティング®認定講師マスター)



○研修内容

1 ホワイトボード・ミーティング®についての説明

(1) 本日のゴールの共有

(2) ホワイトボード・ミーティング®の基本的な考え方

(3) 思考を生み出す9つのオープン・クエスチョンについて

(4) ホワイトボード・ミーティング®の進め方



4人グループによるミーティング

2 演習

・自己紹介や情報交換を通して、ペア・コミュニケーションやオープン・クエスチョンの練習をしました。



ホワイトボードを使った演習

・全員一斉に、ホワイトボードに文字を書く練習をしました。講師からは、字の大きさや字体等、ペンの持ち方から見やすい書き方まで丁寧な指導がありました。
・実際にホワイトボードに書きながら「発散」、「収束」、「活用」のプロセスを作る手法を学びました。
・午後はグループに分かれて、「ホワイトボード・ミーティング®6つの基本会議フレーム」のうち、「定例進捗会議」、「役割分担会議」、「企画会議」の3つに挑戦しました。

今年度はホワイトボード・ミーティング®のスキルを学ぶ

ことによって、コミュニケーション力の向上及びファシリテーション技術を身につけるといふ実践的な内容で、地域の方と一緒に地域課題に取り組むにあたり役立つ研修会になったものと思われまふ。参加者からは、「今後の業務(企画会議や情報会議等)で活用してみたい」、「これからの仕事でヒントになることがあった。こんなに楽しくコミュニケーションがとれたら良いと思った。」等の声が聞かれました。参加された職員の方々が、それぞれの公民館で学ばれたことを活かして活躍されることを願っております。



グループ別会議の様子



「我が集落
せいば、なる!」

長岡市寺泊公民館野積分館
分館長 高津 勝



弥彦さまの上陸地、野積。国道402号線沿いで、前は海、裏は山。夏は海水浴で賑わいますが、今は北風が強く寒い、浜辺の集落です。昔は村中が漁師でした。そして冬は酒造りの出稼ぎで、「杜氏のふる里」でもあります。

公民館の仕事をするようになって、「自分が幸せになるには、人も幸せでなければいけない」と思い、地域内の年中行事を復活しようと考えました。

まず、跡取り息子の会(元(あん)にや会)を発足。これは昔の青年団です。婦人会は「嫁会」。子供の親は「親子子供会」と組織をつくり、

50軒余りの集落が賑やかになりま
した。高齢化時代だから皆んなで
楽しく暮らそう。イベントモツ
トーは「せいば、なる」の全員参加
型。春で楽しいのは村祭り。夜宮
の晩は演芸会。子供達は「新田太
鼓」に「劇 浦島太郎」、「大宝引大
会」。一晩中、歌に踊りに手拍子が
続きます。そして翌日は本祭り。
子供達を先頭にドンピッピ、ドン
ピッピと山車が村を回ります。山
車はリヤカーに紅白の幕旗と提
灯。太鼓を打ちながら獅子舞の神
楽が各家々を回ります。嫁会は、杜
氏さんの酒樽に紙花を付けた花御
輿。ワッショイ、ワッショイ、ドン

ドン、ピッピとの風景が聞こえ、野積小学校で運動会をや月の第2日曜にパン食い競でお昼。おにぎは輪になり盆踊り。

年の瀬もせまり寒くなり、さすが私は書物の神づくり。人と人を結ぶ絆であったか集落です。



視占



長岡市立北中学校
校長 武桶 正之

「現代的・社会的課題に目を向ける」

学校現場では過度なゲーム依存等で日常生活に支障をきたしている子どもが増えています。最近のゲーム機には「ボイスチャット」というプレイヤー同士が通話しながら遊べる機能があり、まるでその場に友達がいるように感じるそうです。

厚生労働省の調査では、ネット依存が疑われる人は成人で推定約421万人、中高生で約93万人（2017年）いると推定されています。また、ゲームに熱中し過ぎて日常生活に支

障が出る病気を「ゲーム障害」といい、WHOでは新たな病気として2019年5月に国際疾病分類に加えました。

学校ではSNS等に関する指導を行い問題解決に取り組んではいませんが、改善されないケースがあります。適度な利用は別としても、この過度な利用の問題には、家庭での生活が大きくかわって、ゲーム機やパソコン、スマートフォンを部屋に持ち込み夜中までやっているという本人の問題があります。また、親御さんが子どもの頃にゲーム好きで、子どもを巻き込んで制限なくやってしまう、祖父母は「孫がかわいいうから、孫が喜ぶなら…」といったことで、制限どころか多額の

課金を与えるという本人以外に問題があるケースもあります。

では、どうすればいいのでしょうか。学校以外での親等の理解を促す機会の設定や子どものゲーム中心の生活を改善できる取組が必要と考えます。

そこで、期待を寄せるのが、地域住民の必要課題として「現代的・社会的課題」に取り組む社会教育、とりわけ公民館やコミュニティセンター等での家庭教育講座や親子活動、子どもたち同士の活動及び相談窓口の設置等です。中でも小中学生の時に、「ボイスチャット」で味わう感覚でなく、子どもたち一人一人が生身で交流できる活動等の企画に期待をしたいと思っています。

揭示板 *HOT NEWS*

〈第2回新潟県公民館月報編集委員会〉

日時 令和2年1月20日(月)

1:30 ~ 16:30

会場 新潟市中央公民館303講座室

内容

(1)令和2年度公民館だよりの編集について

- ①市町村執筆担当の確認
- ②特集執筆者の選定
- ③紙面構成の検討

(2)その他

- ①編集全体について
- ②新設コーナーについて

〈第31回全国セミナー参加者〉

令和2年1月29日(水)～31日(金)に
国立オリンピック記念青少年総合セン
ターで行われる全国セミナーの参加者
が決定しました。

加茂川 真理さん(上越市)

入澤 勇太さん(刈羽村)

栗原 大輝さん(新発田市)

片桐 康正さん(新潟市)

今城 敬子さん(新潟市)

研修のテーマは「新しい時代の公民館戦略を考える」です。全国の参加者と大いに情報交換し、研修を深めてもらいたいと思います。

特集

新潟県立生涯学習推進センターの研修

ペリミッドはつくるな、

鉛筆のような尖塔を建てよ

新潟県立生涯学習推進センター

副参事 五十嵐 和彦

県民の皆様にとって、生涯学習推進に携わる皆様にとって、学校関係者の皆様にとって、必要課題と要求課題は何かを常に念頭に置き2年目を務めております。

生涯学習を推進する立場に在る者として、「踏襲」ではなく「改善」を図り事業を展開してきました。



「にいがた連携公開講座」

今年度までは、本講座の連携機関は「大学等高等教育

育機関」となっていました。が、「高等教育機関等」と改訂しました。それにより、企業、NPO等の民間団体等との連携が可能となりました。

文部科学省は、①NPO等の民間団体や企業との連携・協働は、生涯学習を推進する上で大きな役割を果たしていること、②今後その役割はますます重要なものになると考えられ、民間団体と企業との連携・協働による取組を促進することとしています。

改訂の背景には次の3点がありました。

① 昨年度の受講者の年齢層の割合は、60～70歳以上が72%、10～30歳が6%であり、受講者の多くが高齢者であること。

② 講座内容が固定化しつつあること。

③ 青少年・壮年期を対象とした講座の提供が少ないこと。

改訂後は、講座内容のマンネリが解消され、幅広い年齢層の方々の受講機会が広がることを期待しています。

次年度以降、開催市町村のニーズに沿った、より一層魅力ある講座開設になるよう努めます。

【基礎研修会】

今年度は研修内容を一新し、心理学の視点から社会教育を見つめることを中核にして講座を組みました。研修会を貫くテーマは、「足元を見つめ直し、一歩



今年度のチラシ

踏み出す」です。

第1回目は、講師に宇都宮大学 教授 佐々木 英和氏をお招きし、「誰のために、何のために学ぶのかー自分を見つめ、自分を生かす」を演題に講演とワークショップを行いました。

第2・3回目は、講師に立正大学准 教授 高橋 尚也氏をお招きし、社会心理学と「コミュニケーション」の立場からアプローチし、「自己を知り、コミュニケーションの中で各人の力を活用し、よりよい社会生活を送るために」「調査研究法に基づくプログラム開発の在り方」既存のプログラムを改善し開発するために「」を演題に講演とワークショップを行いました。

第4回目は、「体験から学ぶ」事業改善に向けて「フミダス一歩」関わりの中から学び「気づくチカラ」と題して、新潟県生涯学習センター 社会教育主事



次年度配布予定のチラシ

杉山 茂一氏から講演とワークショップを、そして、「事業改善と開発の実践―館を支え、地域を支える気概―」と題して当センター相談員 熊合 いみ子から実践発表していただきました。

今年度は、75人(昨年度64人)の方から受講申込みがありました。

次年度は、(株)いろむすび代表取締役 古林 拓也氏(グローバル経営大学院修士、米国プロジェクトマネジメント・プロフェッショナル有資格)による講義とワークショップを行う予定です。

「地域連携コーディネーター養成スクール」

地域コーディネーターの皆様の「ファシリテーターとしての知識とスキル」を養成する内容を改め、受講して下さった皆様が現場で生かせるワークショップになるように改善しました。

「みらいずワークス」を訪問し、講師の小見 まいこ氏と打ち合わせを重ね、研修内容を検討しました。キーワードは、次の4つです。

①「システム思考」、②「マインドセット」、③「ループ図」、④「レバレッジポイント」です。

受講者の皆様からは、

「ループ図をこれからの事業等に活かしていきたいと思いました。」

とても楽しい時間を過ごすことができて有意義な研修会でした。」

「いろいろな職種の皆さんと、一つの課題について話を深め色々な気付きがありました。思い込みをなくし、まずは自分が楽しく活動していきたいと思いました。そして、自分が地域を変えられる一人になれるよう頑張りたいです。」

「システム思考を体系的に知ることができました。手法として大変興味深いです。テーマ設定が現場に沿った目線で有益でした。」

などの感想がたくさん寄せられました。

当センターで受講された皆様へのアンケート「研修を受けられての感想はいかがですか。」の設問に対して、「A 大きな成果があった」「B まずまずの成果があった」と肯定的に回答した割合が100%でした。とても充実した研修会を開催することができました。

第2回目には、「今、人生100年を生きる子ども



たちのために―地域総がかりで子どもを育てる社会を―」と題して、東京大学大学院 教授 牧野 篤氏からご講義いただきました。

第3回目は、「地域住民が学び活躍する学校へ―『コーディネーター』の充実から『コラボレート』への成熟を目指して―」と題し、国立教育政策研究所生涯学習政策研究部 統括研究官 志々田 まなみ氏からご講義いただきました。

今年度は、223人(昨年度169人)の方から受講していただきました。

次年度は、東京大学大学院 教授 牧野 篤氏と受講者(会場)が一体となったトークセッションを開催する予定です。

「チラシ」

チラシも全て一新しました。

チラシを手にする側の立場になって、「共感を得るような内容を盛り込み、興味や関心を持っていただけのような惹き付けるチラシをつくりました。

「おわりに」

私の大好きな言葉に「ピラミッドはつくるな、鉛筆のような尖塔を建てよ」があります。これは、小惑星探査機「はやぶさ」のプロジェクтомネージャーであった川口 淳一郎氏の言葉です。

できない理由を探すのではなく、今まさに改善のときと判断したらすぐに行動しようということです。時々刻々と変わる社会ですから、社会教育の充実を図り生涯学習を推進する者も進化し続け、個性を発揮して仕事にやりがいを見出すことが大切だと思います。

262

きのと交流館 マナビッブ講座

胎内市中央公民館

実践記録シリーズ

きのと交流館は平成27年度に以前の福祉センターから移転した施設です。そこで、市内の多くの人に地域の憩いの場として認知し利用してもらうこと、様々な生涯学習の機会を提供することを目的に、幅広い年代に向けて事業を計画しています。

① 子ども講座

夏休み・冬休みの2回、午前中に料理教室、午後からは工作教室を実施しています。フッキング教室では子どもたちが家でも簡単に作れるちよつとしたアイデア料理を、工作教室では苔玉や石鹸、クリアキャン



② きのとで茶の湯

市内の生涯学習フェスティバルで活動している市民茶会の裏千家流の方々を講師に依頼し、平成30年度から始めました。日本の伝統文化である茶道に触れ、お茶会のマナーや楽しみ方を学びつつ和菓子や抹茶をいただき、加えて自分でもお茶を立ててみることで

るイベントです。

平成30年度は平日開催で大人を中心に23名の市民が参加しました。講師の方々の、子どもたちにもっと来てほしいという要望を受け、令和元年度は夏休み期間の土曜日に開催したところ、当日参加や子ども連れも多く、27名の参加がありました。

③ 夏休み学習スペース無料開放

夏休み期間中に市内の小中学生が勉強または遊びの場として立ち寄れるように毎週月曜・木曜を学習スペースとして学習ルームを開放しました。ペーパークラフトや折り紙なども設置し、小学生と中学生の部屋を分けるなどの工夫をしましたが利用者数が伸び悩んだため、平成30年度のみで開催となりました。なお、エントランスは常時無料開放しています。

④ たいない満喫プログラム

胎内市内の社会教育施設など、普段自分では足を運ばない施設を巡って胎内市の魅力を再発見しようというバスツアーです。平成30年度は完成間近の奥胎内ダムや、開校したばかりの食料農業大学、米粉工場などを、令和元年度は馬の養老牧場、胎内市美術館の船絵馬



展などを見学しました。

⑤ フラワーアレンジ教室

30年度末に事業の少ない春にイベントをと、企画したところ女性に大変人気で、アンケートの結果から、生花をつかったアレンジメント教室への需要が高いことが分かりました。令和元年度ではお正月を飾る生花のアレンジを企画し、実施を予定しています。



この様に年間を通して様々なイベントを企画し、乙地区だけでなく市内の人々にもきのと交流館に足を運んでもらえるよう取り組んできましたが、まだイベントの申し込みの際に場所を聞かれることも多いです。今後も様々なニーズにこたえるような事業を企画し、生涯学習の場として活用してもらえ施設になっていければと思っています。



歌の大好きな 仲間達

ラ・フル

私共ラ・フルは、平成27年に発足した歌の大好きな仲間達です。昭和歌謡を中心に、フォークソング、ハワイアン、ポピュラーソングなど町の皆さんに楽しく聞いていただけるような歌をたくさん演奏しているグループです。4月の「花まつりゆざわ」、8月の「湯沢温泉夏まつり」のイベント出演、また9月の「ふれあいコンサート」、11月の「芸能発表会」、また宴席でのイベント出演などと、皆さんに楽しい時間を過ごしていただくと同時に、私達も楽しんでやっております。また、ケアハウス、老人ホームなどのボランティア活動（5～6回／年）に積極的に参加させていただき皆さんに喜んでいただいております。



イベントなどの出演前には、週7日（いわゆるほぼ毎日）公民館に通い、少しでもレベルアップした演奏を皆さんに届けたいと練習に励んでいます。さらに今年は、リードギター、テナーサクソスが新たに加入し、さらに充実した演奏が出来るようになったのではないかと、嬉しく思っているところです。

子先生ご指導の下、歌うことが大好きな13人のメンバーで活動しています。

コーラスは声を出す前の準備が大事。まずはストレッチ、その後発声練習、その時点で体はポカポカ、心はウキウキ。立ち方ひとつで声も変わってきます。歌に込められた想いを体全体に巡らせ心を込めて歌いだす。そして声がひとつに重なった時の気持ちよさ。歌いながらも胸が熱くなり涙がこみ上げるメンバーも。

「歌」って、「音楽」って、みんなにも人の心を感動させる力があるんだとつくづく感じる今日この頃。25年という長い歴史の中で、結成当初からコーラスすもんを支え続けてきたメンバー、仲間たち、そして先生に心から感謝しつつ、今日も楽しく練習します。聴いている人の心に届くよう、心に響くような歌を歌えるように……。

大切なこと

それは感動する心

コーラスすもん

「パチパチパチ！今のすごく良かったー」先生からの一言で、思わず小さくガッツポーズ……。自然豊かな魚沼市旧守門村で活動している私達「コーラスすもん」は、来年で結成25年を迎えます。現在は故・吉岡武良男先生の遺志を引き継いだ志田梨花



魚沼市・コーラスすもん
団長 五十嵐由美子 記

五泉市生涯学習課 企画推進係

主査 小池 和代さん



生涯学習課に配属となって3年目の小池さんは、主に青少年関係事業を担当しています。つい先日の子ども会連合会のもちつき体験が無事に終わり、参加者の皆さんに喜んでもらえてほっと一息ついているところです。小池さんは仕事に対して鋭い嗅覚を持ち、まだ先にある課題を次々に予言しては解決に導いてくれます。周囲に気を配りながら臨機応変な行動もできる、本当に頼りになる存在です。

一方で、時々ボケて周囲を爆笑の渦に巻き込む小池さん。クールな見た目とギャップがあり過ぎです。休みの日には、ボルダリングやラフティングに挑戦する等アクティブな一面も。ひらめいたら、突然一人で旅に行っちゃう行動力にもビックリです。（最近では粟島浦村に行きました！）

これからも、生涯学習のフィールドで好奇心とチャレンジ精神を存分に発揮してください。ご活躍を期待しています。

（生涯学習課 伊藤 直子 記）

小千谷市公民館

主査 長谷川しのぶさん



小千谷市教育委員会生涯学習課に勤務して4年目の長谷川しのぶさんを紹介します。行政改革により組織変更があったことから公民館在籍2年目です。

今年は「第34回国民文化祭・いがた2019、第19回全国障害者芸術・文化祭」が新潟県で開催され、各自治体で国民文化祭を盛り上げるための独自事業が行われました。小千谷市では、①小千谷縮や錦鯉など小千谷の文化を体感するまちあるきイベント、②国の有形文化財に登録された西脇邸で毎晩日替わりの伝統芸能上演、③念願だった地元高校生による小千谷縮ファッションショーなどを行うために係の中心となって持ち前の軽い（笑）フットワークで縦横無尽に活躍しました。まだまだ忙しい日々を送っていますが、いろんな相談に乗ってくれ、きちんとフォローもしてくれる気の利く頼もしい存在でもあります。

プライベートでは2人のお子さんのお母さん。小学生と保育園の元気な娘さんがおり、家事と子育てに奮闘中！の素敵な女性です。

長谷川さん！これからもよろしくお願いします♪

（小千谷市公民館 大淵 和幸 記）

素顔拝見



目次 第1部 特集日本公民館学会の研究の到達点と課題

— 年報からみた15年とこれから —

恵贈資料紹介

日本公民館学会年報 第16号

第2部 研究論文

第3部 国際交流・比較研究

第4部 日本公民館学会第17回研究大会記録

第5部 日本公民館学会研究活動報告

第6部 公民館をめぐる動向

日本公民館学会「研究年報」における研究の特質とその課題、中山間地域における自治にむけた協同

的関係の構築に資する公民館の役割、新潟県十日町飛渡地区公民館を事例に「はじめとする研究論文や第17回研究大会の記録、研究活動等をまとめた年報となつていきます。

〈問い合わせ〉

日本公民館学会(事務局)

〒305・8572 茨城県つくば市天王台1・1・1

筑波大学人間系(教育学域)

生涯学習研究室

お元気ですか

加藤 一善
(佐渡市)



退職してはや3年あまり。

毎日が慌ただしくあつというまに3年たったというのが実感です。

退職の際に、小学校の「スクールガードリーダー」を依頼され、都合のつく日の朝は交差点に立ち、登校する子供達を見守っています。

ランドセルを背負っていた子が中学生になり、体つきも大きく成長していく姿をみると、わが子のようにうれしく

思えてきます。

毎週水曜の夜は体育館で、同級生とその奥さん達と一緒に「ソフトバレーボール」を和

気あいあいと楽しんでます。同級生といつこともありません。同級生といつこともありません。同級生といつこともありません。

また、年間計画を組み月1程度割合で事業(飲み会)を実施し、毎回飽きもせず

親睦を深めています。

この他にも今年で10年目となる「バラ組杯畑野駅伝大会」を毎年10月に主催し、小学生から大人のチームまで多数参加いただき好評を得ています。

こうした活動が、微力でも地域活性化につながっていくと願っています。このようない活動ができるのも、気の置けない仲間がいるからであり心から感謝しつつも、明日からも罵言雑言を浴びせあいながら楽しんでいこうと思っています。

※「お元気ですか」のコーナーは現役をリタイアした方がその後にも元気に活動している様子を紹介するコーナーです。

雪によって生ずる諸問題解決のため取り組んでいます

新潟県をはじめとする豪雪地帯は、豊富な水資源や良好な自然環境に恵まれ、食料やエネルギーの供給地として、我が国を支える重要な役割を担っております。協議会会員18市町村は、緊密な連携を図りながら一致協力して特別豪雪地帯の住民生活の向上を図るため、取り組んでいます。

新潟県特別豪雪地帯市町村協議会

会長(妙高市長) 入村 明(会員18市町村)

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館(新潟県市長会内)

TEL 025(284)3434 FAX 025(285)3135

編集後記

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。新しい年をむかえると何か今年が頑張ろうと目標を立てる人が多いと思います。ちなみに私の昨年の目標は

「近辺の山を登り体力づくりを励む」でした。一度も山登りに行きませんでした。ウオーキングは続けて体力は少しづつはれたかという感じです。今年は、体重〇キロ減量を目指して頑張ろうと思っています。

(広瀬)

※お詫言と訂正

月報12月号4ページ「特集」にいがた生涯学習県民フォーラム2019の会場名に誤りがありました。

(誤)新潟県立生涯学習センター (正)新潟県立生涯学習推進センター
いつもお世話になっている施設です。深くお詫言申し上げます。